

岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 4 号

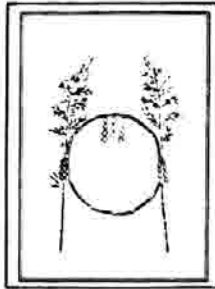
昭和62年 7 月 吉 日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地

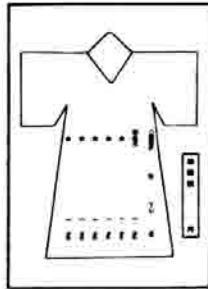
郵便番号 806

電話 621-1898

産土太神
守護



形式 (表)



形式 (裏)

夏越祭

(七月二十九日)



輪くぐりの絵

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行ないます。

社頭に茅カヤの輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。

ご参拝の方は上記の形代に御家族の住所、氏名、年令と書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

神社庁より功勞表彰を受けられた 上野國雄さんについて

此度、当、岡田神社総代会々長の上野國雄さんが永年神社神道の護持運営に寄与された功績に依り、神社庁功勞表彰を、お受けになりました。

皆さんも、ご承知のように、上野さんは今年九十六歳に云ふお歳にも拘らず、尚、矍鑠として後進の指導に当られ、大変ご健康な身体（からだ）の持主です。ちよつとお耳が不自由なせい（せい）か、私共には大声で話しかけられます。そしてゐつも慈父の笑



顔が絶えません。私等が知らない間に、社頭のお掃除をされていたり、或時などは、大風で倒れたポプラの大樹の根を一人で掘越し、鋸で切つておいでになりました。此れにはまったく驚きました。また自分で出来ない事があれば、ちゃんと誰々さんコレ／＼をやつて下さらんか、と申しつけになります。御祭事のある時などには何事も一番先にきちんと服装を更めて、ご参拝になります。ですから自分で出来る事なら率先垂範（せんせん）の人です。

上野さんは、一人でも多くの人々が、この鎮守の森を訪れ、清々しい（すがすが）しに神気に感応し、新しい魂魄の弥栄（よさ）を載（お）いて帰る。その為には神苑は清浄であつて常に神々の集い給ふに相應（あ）ひしい所としなければ

ばならぬ。そう思つてゐられるのだと思ひます。

私が或るとき「上野さん、長生のコツを教えて下さい」と、不養生で自分でも努力が足りない、日常を棚（たな）に上げてお尋ねしたら「ウソを言わず正直になることです。」平凡な言葉でしたが、よく考えてみますと、なか／＼どうして／＼。

私などは親しいお医者（い）が心から私の為を思い教えて下さつた健康法も正直に実行せずタナボタ式（しき）に上野さんに長生のコツなど、お尋ねした横着（よこつけ）な根性を一発で見破られ、おまけにウソを云わないようにと、戒められようとは、いい加減な年になり孫も三人いる私も全く小僧（こぞう）の資格もなかつた次第（しだい）です。

上野さんと会話された方なら一度はこの「喝（かく）」を載（お）いた経験（けん）がおわりではないでしょうか、明治は決して遠くに去つてゐません。私等の心の糧（か）として、今も直、厳然（げんぜん）とその威風（いふう）を保つ、この上野さんの息吹（いきぶ）には真（ま）に頭（かぶ）の下の（した）の思ひです。

「上野さんご受賞（ごじゆうじやう）お目出（めい）とうございますほんとお目出（めい）とうございます。皆さん、もう一度拍手（あし）でお祝い（いわい）申し上げます。」

神社なぜ問答

(その3)



問 猿田彦大神はどんな神様ですか、又、興玉神とどんな関係がありますか。

遠賀町 竹○貴○次

問 神社や、旧街道などにお祭してある猿田彦神とは何の神様ですか。

別当町 滝口やすよ

答 猿田彦神は伊勢の宇治山田に御鎮になる猿田彦神社のご祭神です。天孫が此の国へお降になるとき道先案内にとめられた神と云われ、日本書記に依ると鼻の長さが七寸余り、背の高さは七尺余、眼は鏡のように輝き、口は赤く大きく広がっていたとあります。天孫を高千穂の峰にご案内されたのち、伊勢の五十鈴川流域を開拓されてお住みになり、

宇治の土公氏の祖神、太田命はその未裔と云われ、天孫を案内された故実から道は日神の道、教えは猿田彦の導くところとして崇められた、また五十鈴川流域を開拓された地主神を興玉神と云い、垂仁天皇の御代皇太神宮の齋主となられた倭姫命の鎮座伝記に依ると、猿田彦神は興玉神であると神託があったことから同一神と伝られ、此の神等が伊勢を開かれ皇太神宮を鎮祭申し上げることになったのは天上からの幽契に依ると古書（古語捨遣）に伝えられている。また興玉神の興は大地の地霊を意味し魂魄の根元と解される。即ち、息であり玉は即ち魄体であり、五十鈴川の沖積土より化成し給ふ大國魂の神の意味も有ると思う。

古来興の字を用いた書が多くあり興玉は、招霊となり息気神となったり魂魄を返す意味になつたりしてゐるが興玉神と猿田彦神は地霊との結びつきから同一神と解されたのだと思う。その他に、道祖神、賽ノ神、庚申さま、衢神（四方々通じる道の意）と云ふことから民間信仰と合集して複雑な神格を形成し、村境や、峠、道の辻などに祭られ、流行病疫神を塞る神、幸ノ神、村を護る閻の神、子供の咳を鎮める神、子供を災難から守る庚申さま、隣村の娘と逢い引きした縁結びの神、安産の

神などと多用に展開されている八幡西区曲里町から京良城町に通じる幸ノ神町は旧長崎街道の地名ですが、地元の皆さんの信仰されてゐる鞘神の変化であり、現在も祠が祭られ土地の人等の信仰が続いてゐます。

又、時々此の、岡田神社に奉納される筑前神楽の演目の中に猿田彦の神楽舞があります。が、その神楽言葉の中に「我は天下の土君なり、見ざる、言わざる、聞かざる事を覚えり知る徳あれば猿田彦の神と云う」又「息を吹き返すの徳あれば興玉の神とも申すなり、今天津神・寅の方より出給へば云々」などがあります。いずれも天神地祇の恵をえて、此の土に化成した生物の霊長である人類が掛ヶ替のないこの地球に如何にして科学と倫理を保ちながら生存すべきかを古伝が物語っているのだと思います。

(権)

(参考書籍)

- 一、神道大辞典
- 二、神道辞典
- 三、猿田彦神社由緒記に依る。

郷土地名考 ④

漢 筒井の北、鹿児島本線より北の地区。開作以前の海岸線が湊満宮の元宮地「湊崎」もこの地区の先端であろうか。

城石 城石開作の地。城山の石を用いて築堤したので城石という。城石は、本来は中橋川より東は藤田村抱、西は熊手村抱の筈であるが、開作竣工後、城石は藤田村抱と定められた。その際、庄屋役料田は熊手村抱として残された。昭和期でも工場用番となるまでは、海岸の一町六反余は池であった。

新起 城石の西の海岸部、前に天保一二年（八四一）の熊手村願書とその結果を示しているが、同一三年九月の「遠賀郡熊手村庄屋組頭今仕上指出之事」に、「當村貞元御開中小瀬土手外水溜之内、言立分凡七町程御座内、百姓自力を以少々宛起立、実熟之年は是迄寸志米上納仕来り得共、根元地低之所二而毛付之年は稀二有之、只今之通二而は起立之期無御座二付、汐抜、中土手築立等之御普請仕法立評儀仕得共、太造之御普請二付、急二夫繰出来難被仰付二付：（中略）：百姓中自力を以、田老作、又は稲作堀立の心得罷在、其上前文之通格別結構二被仰付ぬ末二付、相働杭竹等少二而も下直二相成ぬハ、買立仕、柵内土入も相成丈ヶ出精致ぬ而夫高相減、且御郡夫現出方少く相成ぬ様申談ぬ処いつれも其段承知仕居申ぬ間、指向ぬ廉々御普請夫高、相成ル限り二減少仕、普請方申合、大庄屋衆

指図を受、近々夫積帳指出御願可申上ぬ。幸當年貞元御開作も地高之所は作並宜敷、来卯春糧物も御座ぬ二付。起立相増ぬ様立入宰判可仕上ぬ、此段指出仕上ぬ」（宇都宮家文書）と記している。新地は天保期後の起し起し立てであろう。

東割 貞元開作の東部半分で、右の引用の「地高之所」であろう。



七五三祭は、子どもの成育にとまない折目、切り目に神社にお参りして、いつそこの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。

なお、昭和六十二年の七五三の年齢は、下記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。



記

三歳 昭和六十年生
五歳 昭和五十八年生
七歳 昭和五十六年生
※年齢はかぞえ年です。

編集後記

●好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくささんのおたよりをお待ちしています。

●近ごろ神社で赤ちゃんの宮参りや厄除けのご祈願を受ける方々の中で、のし袋や封筒に玉串料を入れずに、財布の中から、現金を取り出して、「ハイ」と出す人が増えてきました。

玉串料というものは、お神様へのお供物ですから、きちんと、のし袋か封筒にお収められた方が好しいです。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。
●一日、十五日には神社に参りましょう。